

恋愛関係が大学生アスリートに及ぼす影響についての研究

スポーツ経営組織学ゼミナール 1215157 古屋 玲

1. 研究動機・研究目的

近年、学生確保を目的とし、スポーツ推薦を入学形態として取り入れる大学が増加の一途を辿っている。その結果、大学運動部の勝利至上主義に拍車がかかっている現状があり、大学アスリートによる不祥事が多発している。大学運動部の在り方が問われているいま、青年期である大学生アスリートが活動していく上で、何が重要であるかを考えるべきである。

青年期における男女にとって恋愛は重要な人間関係である(松井,1993)。青年期は異性との関係に強い関心をもちはじめる時期であり、結婚と家庭生活の準備期ともいえることから、青年にとって恋愛関係は重要だろうと思われる。この恋愛関係での相互作用のあり方は、当該関係の善し悪しだけでなく、個人の精神面や価値観にまで影響すると考えられる。(多川,2003)また、過去3年の間に恋愛関係をもったことがない人よりも、恋愛関係をもった人の方が自己実現の程度が高く、恋愛関係が個人の精神面や価値観に影響を与えることが明らかになっている。

Henderick & Henderick(1986)によると、恋愛はそもそもアンビバレンスな特徴を持っている。アンビバレンス(ambivalence)とは、人を愛することにおいて、愛というポジティブな感情の裏に、恨みなどといったネガティブな感情も潜んでいる状態である。恋愛では感動、幸福感、一体感など、すばらしい感情を味わえる一方嫉妬や、葛藤、無力感、恨み、孤独感など様々なネガティブな感情も伴っているのである。

そのようなポジティブ・ネガティブな感情に関して、ストレスに伴うネガティブな感情が心身の健康に影響する一方、ポジティブな感情をもつことはストレスからの悪影響を緩和して身体の健康が促進されることが示されている(島井哲志,2006)。Cerin,E(2003)はアスリートを対象に心理状態と競技成績についての関連性について調査を行い、競技成績が低かった群は試合開始1時間前の心理状態において、状態不安が大きく、恐怖悲しみ、羞恥などの不快感情が多く、楽しみや興味などの快感情は低かったことを明らかにした。この研究から、反対にポジティブな感情をもつことが身体的・精神的安定をもたらし、間接的に好成績に影響することを考え、松本(2014)は運動部活動を行っている体育系大学生を対象に、ポジティブ・ネガティブな感情をもたらす大きな要因と考えられる恋愛の状況や恋愛に対する考え方が、競技成績の予期と関連するかどうかを検討することとした。その結果、恋愛に価値をおく態度をもつ者は、恋愛の対象とポジティブな関わりがある時、その影響を受けて競技成績があがると予期していることが示された。

これらのことから、恋愛が大学生の心理にポジティブなものとネガティブな影響を与えること、そして大学生アスリートは恋愛感情が競技成績に影響を与えると予期していることが明らかになっている。しかしながら、実際に大学生アスリートの競技への取り組み、私生活、恋愛関係に着眼し、競技以外に恋愛関係が大学生アスリートにどのような影響を及ぼしているのかについての研究は未だされていない。

そこで本研究では、恋人がいる大学生アスリートを対象に調査を行い、大学アスリートに

影響を及ぼしている要因を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

[調査対象]

大学部活動に所属しており、恋人がいる大学生アスリート(n=10)

[調査期間]

2018年10月中旬から下旬

[調査方法]

半構造化インタビュー

[分析方法]

KJ法によるグループ編成

3. 主な結果と考察

本研究では恋愛関係が大学生アスリートに及ぼす影響要因を明らかにすべく、調査を行った。その結果、①心の健康状態、②競技、③私生活、④人間関係の4つが大学生アスリートに影響を与える要因であることが分かった。これら4つのラベルのうち、①心の健康状態は、「精神的安定」「感情の起伏」「ストレス」「幸福感」から形成され、②競技は、「モチベーション」「プレッシャー」「積極性」「ポジティブ思考」から形成され、③私生活は、「制限」「生活を模倣」「生活面の支え」「性」「生活面の乱れ」から形成され、④人間関係は、「友人」「ライバル意識」「相談」「依存」から形成された。

そして、この4つの要素のうち①心の健康状態は、②競技、③私生活、④人間関係と相互に関係しあっていると考えることが分かった。また、④人間関係においては、②競技、③私生活に因果関係があることも分かった。

4. 結論

本研究の結論は以下の3点である。

1. 恋人と恋愛関係を構築している大学生アスリートに対して①心の健康状態、②競技、③私生活、④人間関係の計4つが影響を及ぼしている。
2. 恋愛関係は大学生アスリートにとって好影響と悪影響を及ぼしている。
3. 恋愛関係が大学生アスリートに及ぼす影響要因は複数存在し、競技以外のプライベートにも影響を及ぼしている。

5. 卒業論文の執筆を終えて

本論文の執筆にあたり、お忙しい中ご指導ご鞭撻をいただきました水野基樹先生をはじめ、大学院生の方々に心から感謝申し上げます。また、インタビュー調査に協力して下さった10名の方々にも御礼申し上げます。貴重なお時間を私の研究のために割いていただき誠にありがとうございました。